

<p><b>12日 (日)</b></p> <p>創世記 25章</p>	<p>「息子イサクとイシュマエルは、マクペラの洞穴に彼を葬った。…アブラハムは妻サラと共に葬られた」(9-10節)。かつて後継争いでサラに疎まれ追放されたイシュマエルが、イサクと共に父の葬りに立ち会っている。イサク 75 歳、イシュマエル 89 歳。この光景の背後に、家を追われたイシュマエルを護り続け、家族の和解に導かれた見えない神の働きを見る。</p>
<p><b>13日 (月)</b></p> <p>創世記 26章</p>	<p>「イサクは、その井戸をレホボト(広い場所)と名付けた」(22節)。マレーシアの原野を開拓し、ストリートチルドレンの家を建てている安部さんを訪ねた時、「飲み水確保が生死に直結する。井戸を巡る争いに巻き込まれたイサクの葛藤と闘いがよく分かる」と語っていた。争いを避け、地道に井戸を掘り続けたイサクに、神は「広い場所」を用意されたことを覚えてほしい。</p>
<p><b>14日 (火)</b></p> <p>創世記 27章</p>	<p>「エサウは、父がヤコブを祝福したことを根に持って、ヤコブを憎むようになった。そして心の中で言った。『…必ず弟のヤコブを殺してやる』」(41節)。相続は人を憎悪の鬼に変える。人間の心の、悲しいまでの浅ましさを想う。しかし、ヤコブのつぶやきはわたしの中にもないか。わたしと誰かの破たんした関係を和解に導くため、主イエスは今日も執り成しておられる。</p>
<p><b>15日 (水)</b></p> <p>創世記 28章</p>	<p>「見よ、わたしはあなたと共にいる。あなたがどこへ行っても、わたしはあなたを守り、必ずこの土地に連れ帰る」(15節)。兄の憎悪を受け、逃げ出したヤコブは、内気でずる賢いところがあった。しかし、神は約二十年に及ぶ長い旅を通して、ヤコブの信仰を養い鍛えていく。どのような私であっても「共に歩みたもう神」を知る時、成長させていただけるのだ。</p>

<p><b>16日</b> <b>(木)</b></p> <p>創世記 29章</p>	<p>「ヤコブはラケルに口づけし、声をあげて泣いた」(11節)。 野外が苦手で、いつも天幕周りで過ごしていたヤコブにとって 独り旅は過酷な体験だった。母に聞いた伯父ラバンの家に 着いた時、彼はこみあげる涙を抑えられなかった。しかし本当 の鍛錬はここから始まっていく。独りで生きる旅の過酷さを感じ ている一人ひとりに今日「共に歩みたもう神」を教えたまえ。</p>
<p><b>17日</b> <b>(金)</b></p> <p>創世記 30章</p>	<p>「ヤコブは激しく怒って、言った。『わたしが神に代われるとい うのか。お前の胎に子供を宿らせないのは神御自身なの だ』」(2節)。当時の一つの結婚形態だったようだが、ラケルと レアの姉妹が夫ヤコブを挟んですさまじい闘いを繰り広げる。 現代の私たちには理解しかねる部分も多いが、この時におい ても、聖書が「神」を主語に語っていることを心に留めたい。</p>
<p><b>18日</b> <b>(土)</b></p> <p>創世記 31章</p>	<p>「その夜夢の中で神は、アラム人ラバンのもとに来て言われ た。『ヤコブを一切非難せぬよう、よく心に留めておきなさい』」(24節)。 ラバンとイサクとの間で、これまで長い間抑えら れてきた感情もぶつかり、激しい議論が交わされる。しかし最 後の一線を越えることなく、二人が「相互契約」に導かれてい く背後には、見えない神の働きかけがあったことを覚えたい。</p>
<p><b>19日</b> <b>(日)</b></p> <p>創世記 32章</p>	<p>「『もう去らせてくれ。夜が明けてしまうから』とその人は言っ たが、ヤコブは答えた。『いいえ、祝福してくださるまでは離し ません』」(27節)。ヤコブは、兄エサウとの再会を前に大きな 不安と葛藤を持っていた。主の言葉にしがみついたヤコブに、 主は、顔と顔を合わせて祝福してくださった。主と格闘した末 に、兄(不安と葛藤という大きな課題)と向き合うことができる。</p>